

全学教員養成理念

本学では、開学以来、「優れたQOLサポーターの育成」を教育理念として掲げてきました。これは、本学の教員養成教育の前提でもあるとともに、これから教職を目指す学生の皆さんが教職に就くにあたって、現代の学校教育が抱える困難な諸問題に取り組んでいくための土台ともなりうるものです。

現代の学校教育には、児童生徒の主体性や学習意欲の欠如、体力・運動能力の低下傾向、食生活や食習慣の乱れからくる健康への影響、さらには、いじめや不登校など、さまざまな問題が山積していると言われています。また、指導力の不足や、児童生徒のみならず教職員や保護者、地域住民とのコミュニケーションがうまくとれないといった教師自身の問題も指摘されています。

以上に述べたことを踏まえて、本学の教員養成教育においては「優れたQOLサポーターとしての教師」を理念とし、求められる資質・能力を5項目あげています。

(本学では5項目の頭文字をとって「STEPS」と定義している。)

「優れたQOLサポーターとしての教師」

Science & Art (科学的知識と技能を学び続ける力)

豊かな教養を有し、教職および専門分野に関する高度で科学的な専門知識と技術を指導の場面において活用できる。

Teamwork & Leadership (チームワークとリーダーシップを発揮する力)

多様な児童生徒の気持ちに寄り添う豊かな感性を有し、保健・医療・福祉・スポーツ分野の複数の職種の人たちとのチームアプローチや、家庭・地域との連携・協働ができる。

Empowerment (対象者を支援する力)

児童生徒の人間形成に関する豊かな教養や人間性及びコミュニケーション能力を有し、横断的・融合的な教育実践を担うものとして、児童生徒の学びを適切に導くとともに、QOL向上に向けた支援ができる。

Problem-solving (問題を解決する力)

教職に対する使命感と倫理観、最後まで職務を遂行しようとする責任感を有し、多様な価値観に寛容であり、児童生徒に関わる諸問題の解決に向けて対話を重ねながら取り組むことができる。

Self-actualization (自己実現を達成する力)

教職と専門分野に関する課題に広く関心をもち、主体的・継続的に学び続けることで、現代社会の情報化・グローバル化に対応し、自己の可能性を広げることができる。

本学において教職を目指す学生の皆さんには、ここに示された「教育の専門職」として求められる5つの知識・技能・能力を身につけ、将来、現代の学校教育が抱える困難な諸問題の解決に向けて取り組んでいくことが期待されています。

「優れたQOLサポーターとしての教師」とは、自らの専門領域における高度な知識・技能と深い教育学的教養を備え、児童生徒の「現在のQOL」に目を向けて適切に対応できるだけでなく、彼ら

の「将来のQOL」の向上をも見据えながら、周囲の人びとと連携して職務を遂行していくことのできる存在です。こうした存在になるためには、学生の皆さんが、豊かな人間性を育み、自らのQOLを意識的かつ継続的に高めていくことが大切でしょう。

本学の教職課程を履修するすべての学生の皆さんが「優れたQOLサポーターとしての教師」となることを目指して大きく成長していくことを強く願っています。

2025年2月1日

新潟医療福祉大学

【健康栄養学科 栄養教諭養成の理念】

『栄養に関する高度の専門性』と『教育に関する資質』を併せ持ち、児童生徒、保護者および地域社会の健康づくりに貢献できる栄養教諭

求められる資質・能力

Science & Art （科学的知識と技能を学び続ける力）

専門領域に関する確かな知識と教養を活かし、児童生徒、保護者、地域社会のアセスメントを行い、学校給食の管理と食に関する指導を一体的に行うことができる。

Teamwork & Leadership （チームワークとリーダーシップを発揮する力）

多職種間連携の技能を活かし、保護者、教職員、地域社会と連携・協働し、良好なコミュニケーションを図りながら食育推進の中心的な役割を主体的に果たすことができる。

Empowerment （対象者を支援する力）

児童生徒、保護者および他職種から信頼される人間性と高潔な倫理観を有し、食に関する指導を通して、多様な背景を持つ児童生徒の食生活の課題を改善に導くことができる。

Problem-solving （問題を解決する力）

自らの手で栄養科学的エビデンスを構築し、教職員と連携・協働する中で、エビデンスに基づいた活動を展開し、課題を解決しようとする。

Self-actualization （自己実現を達成する力）

栄養教諭としての誇りと自覚、倫理観を有し、児童生徒の食及び栄養上の課題を理解し、その解決のために自主的・継続的に学び続ける探究心を持つとともに、国際化・情報化に対応し自らの可能性を拓けることができる。

【健康スポーツ学科 中学校・高等学校教諭（保健体育科）養成の理念】

本学教員養成の理念と指針を基盤とし、健康・スポーツに関する専門性を有し、児童生徒の人間形成と生涯にわたるQOLの向上に資することができる豊かな教養と責任感を兼ね備えた保健体育教師

求められる資質・能力

Science & Art（科学的知識と技能を学び続ける力）

豊かな教養を有し、教職および健康・スポーツに関する高度で科学的な専門知識と技術を指導の場面において、児童生徒の実態に合わせて活用できる。

Teamwork & Leadership（チームワークとリーダーシップを発揮する力）

多様な児童生徒の気持ちに寄り添う豊かな感性を有し、保健・医療・福祉・スポーツ分野の複数の職種の人たちとのチームアプローチや、家庭・地域との連携・協働ができる。

Empowerment（対象者を支援する力）

児童生徒の人間形成に関する豊かな教養や人間性及びコミュニケーション能力を有し、横断的・融合的な教育実践を担うものとして、児童生徒の学びを適切に導くとともに、QOL向上に向けた支援ができる。

Problem-solving（問題を解決する力）

保健体育教師としての使命感と倫理観、最後まで職務を遂行しようとする責任感を有し、多様な価値観に寛容であり、児童生徒に関わる諸問題の解決に向けて対話を重ねながら取り組むことができる。

Self-actualization（自己実現を達成する力）

教職と健康・スポーツ分野に関する課題に広く関心を持ち、主体的・継続的に学び続けることで、現代社会の情報化・グローバル化に対応し、自己の可能性を広げることができる。

【看護学科 養護教諭養成の理念】

本学教員養成の理念と指針を基盤とし、教育職であり看護職であるという特性を生かした「看護の専門性」を身につけた養護教諭

求められる資質・能力

Science & Art (科学的知識と技能を学び続ける力)

学校保健・養護に関する専門知識と技術を身に付け、児童生徒・家庭・地域・学校の実態に合わせて活用できる。

Teamwork & Leadership (チームワークとリーダーシップを発揮する力)

児童生徒の健康課題解決を目指し、養護教諭として家庭・地域・校内外関係機関等とのチーム構築と連携・協働における中核的な役割を担うことができる。

Empowerment (対象者を支援する力)

対象を尊重し信頼関係を築くコミュニケーションを図りながら、児童生徒のセルフケア能力を育成するための適切な健康支援活動が実践できる。

Problem-solving (問題を解決する力)

養護教諭として使命感を持ち、学校保健に関する専門知識・法令・方法論を用いながら個に向き合い健康課題解決をサポートできる。

Self-actualization (自己実現を達成する力)

学校保健・養護に関する動向や課題に広く関心を持ち続け、変化に対応しながら主体的・意欲的に研修できる。